

キラリ★話題の「ひと」



よいなら よしぞう
四十八願 好造 さん
(石塚町)

○プロフィール

大正13年8月27日生まれ 95歳
17歳で陸軍航空隊通信学校に入学し、本部の通信員として戦争を経験。

戦争体験を語り継ぐ

8月20日、終戦から74年の時が過ぎたこの日、佐野市役所1階において戦争の体験を伝える講演会が催され、150人の市民が耳を傾けました。話をしてくださったのは、四十八願好造さん。

四十八願さんは、当時の若者が皆当たり前のように「お国のため」と志願し戦争に行くことに、ご本人も何のためらいもなく決意し、陸軍航空隊通信学校に入学したのが17歳の時でした。苛酷な訓練の毎日が続く中、その傍らで寝る間も惜しんで勉学に励み、結果本部の通信員として終戦まで任務を全うしました。

終戦後22歳で結婚、東京で興した事業を成功させ、定年を迎えます。

地元に戻った四十八願さんは一時も忘れることのない悲惨な戦争のこと、若くして戦場に散っていった戦友のことを伝えたいとの思いから、市内の小学校6年生を対象に体験談を話す機会をいたしていたそうです。それからは次々と

依頼を受け、各小中学校で2年間講演を続けてこられました。8月20日の「語り継ぐ会」では大勢の人達が集まってくれたのを見て、改めて自分に課せられた義務だと思ったそうです。

「現在の豊かな暮らしは戦友の犠牲があつてのもの。佐野市でも3553人の戦死者がいたことを忘れないでいてほしい。そして自分が語り継ぐことが青少年の健全育成につながることを希望します」と。

今では戦争体験を話してくださる方も少なくなってきました。四十八願さんはあと5年、100歳まで続けることが目標だと話してくれました。

(市民記者 山崎ちか子)



講演を行う四十八願さん



災害ボランティアセンターを設置

○ボランティア派遣を依頼したい方 ☎080(8870)0867

○ボランティア活動を希望する方 ☎070(4475)6828

■佐野市社会福祉協議会 <https://www.sanoshakyo.or.jp/publics/index/214>





さのラグビーフェスティバル2019

佐野市は、令和4年に開催される「いちご一会とちぎ国体」のラグビー競技会場です。国体に向けて、本市のラグビー熱を盛り上げようと、9月23日、市運動公園陸上競技場で開催されました。

開会にあたり、岡部市長は「本市は、2020とちぎ国体のラグビー競技会場です。来訪される選手・応援団の皆様を、本市の誇るおもてなしの心とラグビーへの熱い思いでお迎えするため、本フェスティバルを通して、市民のラグビー熱を大いに盛り上げていきたい」と挨拶しました。

当日は、小・中学生対象のタグラグビー教室や、関東高校女子セブンズ交流大会、国体強化試合が行われ、選手・観客ともに、大いに盛り上がった一日となりました。

また、交流試合の前には、日本最高峰リーグであるジャパンラグビートップリーグに所属する「クボタスピアーズ」の選手によるトップリーグ選手講習会も開かれ、多くの中・高校生プレーヤーがトップ選手の技術を学びました。



国際交流協会 座禅会に参加しました

猛暑の続いたこの夏、8月8日、佐野市国際交流協会による座禅会が、栃本町の本光寺（高田光寿住職）で行われました。参加したのは、主に中国の方でしたが、日本の方も参加していました。

ご住職から座禅の説明があり実際に10分と20分の座禅、その後、呈茶（抹茶とお菓子）、お茶の作法を学び、さらに写経、写仏を行いました。

国際交流協会は、広く海外の方々との交流を目的とした団体で、相談活動や語学研修なども行っています。

この日座禅会に参加した方々は、座禅の作法のみでなく日本文化や東洋の心を学び、短時間でも座って、心静めることを体験したように思います。日本文化を紹介しての国際交流も大切と感じました。

（市民記者 福田満）



佐野弁
ばんざい

時間的にも肉体的にも楽だということ、タワエ(モ)ネーという

二つ以上の方言に、意味の似かよっているものがあります。中高年者が多く使用するワキヤーネー・ゾーサネー・タワエネー(タワエモネー)などはそのいい例です。これらの方言は、いずれも同じような意味で、違いの境目が無いようなものばかりです。それにしても同じような意味・用法をもつ方言が、同じ地域に三つも存在するというのは、きわめてめずらしいことです。

もつともよく使われている方言はワキヤーネーです。物をつくったり動かししたり、食事をこしらえたりするときに、手際よくさばくようすがきわだっていることを、ワキヤーネーといいます。ワキヤーネーは、物事のすすむ時間的な速さを感じます。

「庭が広くつタツテ、手先の器用な若者がイヤヤー、草取りなんかワキヤーネー」

ゾーサネーの「ゾーサ」は、物をつくることです。それには手間と費用がかかり、面倒でやっかいたというのが元の意味です。ゾーサネーの「ネー」はそれを否定しているので、ゾーサネーは、てばやい、手数がかららないという意味です。

「料理ツタツテ(といつても)、もともとこれだけの材料しかナカンバー(ないでしょう)、だからコシヤエル(つくる)ンもゾーサネーコツタよ」

タワエ(モ)ネーは、ある行動をしても、何の手ごたえも感じず、また苦勞もせずスムーズに流れるようなさまをいいます。肉体的にも精神的にも楽だという意味です。

「どこへ行くンダンベか。アスコへ行って来るくらいならタワエ(モ)ネーけどさ」

（市民記者 森下喜一）

今回の表紙「復興に向けて」台風19号による被災を受け、多くの方より支援物資をいただきました。また、多くの方が災害ボランティアとして市内の作業にあたっていただきました。たくさんの方の支援により、復興に向けて進んでいます。